

Akinoya inbō Inbō

アキノヤ印房のハンコは伝統的な京印章にこだわっている。格調高い文字、印刀で丁寧に彫られたハンコを丁寧に1本1本彫りあげる一人一人にあった唯一無二のハンコを作り続けている。



アキノヤ
印房

Craft: 印房

Craftsman: 飯沼 匡

Address: 京都市中京区河原町通三条上る恵比須町439



I3
ÉCHEC DES ARTISANS

I3

interview

with

Takumi Meshimuma

飯沼 匡 アキノヤ印房
印房職人



20年ほど前に会社勤めから家業を継ぐ決意をした。今では京都で印房を作る職人の一人として活動している。



失敗することはありますか？

うんまあほとんどないですけど、中には100に1つとか、失敗することもありますけどね。ちょっと間違っただけで切りすぎたりとか。

かなり細かい作業になりますもんね

細かいので、拡大鏡を使いますし、こういうような台を使ったり、して、ちょっとこう、これはちょっと自分で、それぞれ職人さんは自分で工夫してハンコを挟むんだりするんですよ。

デジタル化が進む中で 判子はどうなっていくと思いますか？

時代っていうのはあっという間にいろんな変化をしてしまうんでね、まあハンコがなくなるっていう人もいれば、そうじゃないまだまだ続いている人もいますが、ハンコを作るのはますます彫刻機械とか入ってきて、まあ楽にはなっていくと思いますね。だけれども、まあ職人さんも片一方で残り続けるんじゃないかなあとと思いますね。技術的にどんどん極めていけばますますハンコの彫刻機械でも優れたものが出てくる。出てきてもなかなか最後の職人さんの技術を上回るまでにはもう少し時間がかかる。今のは彫刻の話ですけどね。あともう一つはね、ハンコの制度がなくなるんじゃないかな。サインすら必要なくなって暗証番号でオッケーとか暗証番号だっただけでわからなくなって、指紋でねえ。そういう制度自体が変わっていく可能性があるからね。だからハンコもその、今までは本人確認するための一つの手段ではあったんですけども、その手段自体が別の手段に取って代わられる、そういう可能性があるから。まあそう言った意味ではまあ、ほんとに制度が変わってしまえばいかにハンコを作ってもその制度がなくなればハンコはもうなくなっちゃうなあって気がしますねえ。



現在課題に なっていることはありますか？

柘植の木については、農家が栽培してるんで無くなることはないんですけども、象牙とかについてはですね、これは国内在庫があるだけしかもう使えない。値段もずいぶん上がってしまっていて、そうすると需要が、とても高くなってしまって消費者の手の届く値段ではなくなっていくという、難しい問題があるから、売れなくなってきたですね。柘植はしばらく大丈夫だとしても、象牙は結構いつかなくなってしまうんじゃないですか。

新しい素材を使って 挑戦したい事とかあるんですか？

現在は、新素材と言えるかどうかはわからないですけども、ちょっと天然のものに少し手を加えてるんですけどね。基本は最終的に印刀で彫

れなければいけないのでね。天然の素材を使うんですけどこれはナチュラルっていう全く黒水牛の角に手を加えてない、ただ単に丸く削り出したものですね。これは真っ黒けなんですけど、これをね、もっと染めてるんですよ。ついでに、染めたついでにですね石も入れて、ちょっとこうカッコよく見せるように。

判子の書体はオリジナルですよ？

文字っていうのはやっぱり自分だけが読んでもいけないですから、他の人も基本的に読めないという意味なんですからね。ということはやはり読めるっていう共通するようなのは残したままデザインする必要があるんですよ。

曲線具合とか、細い太いの具合とかが、そうですね、私思うんですけど、うちの店の特色は多分ですけどね、よそのお店とそんな比較したわけじゃないんですけど、あの一線の太い細いが味とかね、その辺が違うんじゃないかと。その一線の、これは曲線の多い文字なんですけど、あの一線がずっと一定の太さじゃないところが、微妙にこう太さを変えてるところかなあとと思いますけどね。

どう考えてデザインされてるんですか？

まあ思いつきといえば思いつきなんですけどそもそも思いつくのが、その、やっける職人勘でやっけるのでね。





印房
Inbō

削り傷

ここにある「失敗」は印稿と呼ばれる下書きから文字デザインを行う荒彫りの工程で文字部分まで削ぎ落としてしまったもの。一つ一つ異なるデザインや形状のものを基本的に手作業で行う為かなり精密な作業となる。だが熟練の職人は失敗する事は滅多になく例え、失敗したとしても再利用するそうだ。顧客に長く大切に使って貰う為には目に小さなミスも妥協できないそうだ。

"Failure" here is a thing which scraped down to the character part in the rough carving process which carries out character design from draft called impression. It is quite precise work because we basically manually do different designs and shapes one by one. However, experienced craftsmen rarely fail to fail, even if they fail, they will reuse them. It seems that we can not compromise small mistakes in the eyes in order to give customers long-term care.

From Google Translate

